新聞定期 朝夕刊月ぎめ 本体価格3,080円（税込み 3,961円）1部売り（税込み）朝刊130円 （第3種郵便物認可）

共謀罪」言論弾圧再来を懸念

北陸中日 '17/4/12

横浜事件の教訓 訪ね学ぶ

戦争中、治安維持法による言論弾圧がなされた横浜事件の発端の地となった富山県朝日町の旅館「紋左（もんざ）」。「共謀罪」の趣旨を盛り込んだ組織犯罪処罰法改正案が国会で審議入りし、治安維持法の再来を懸念する声が強まる中、市民団体が訪れ、事件の教訓を学び取ろうとする動きが出ている。（伊東浩一）

朝日町の現場へ、金沢の団体

金沢敏子さん㊨から横浜事件について説明を受ける参加者たち＝富山県朝日町沼保の旅館「紋左」で

「これが危険を企てる秘密の会議に見えますか」

事件に詳しい金沢敏子さん（六五）＝同県入善町＝が、一枚の写真を見せながら問い掛けた。紋左の一室で耳を傾けるのは、金沢市の市民団体「石川県平和委員会」が募った「平和の旅」の一行二十八人。

◀細川嘉六（後列中央）らが「紋左」の庭で撮った記念写真。この写真が横浜事件のきっかけとなった＝1942年7月、平館道子さん提供

写真の中で、朝日町出身の国際政治学者・細川嘉六らが浴衣姿で穏やかな表情を浮かべる。だが、一九四二年に紋左で撮影されたこの写真を基に、警察は細川らが共産党再建準備の会合を開いたと決め付け、関係者を投獄していった。

「紋左に泊まった細川らは、船遊びをし、料亭に芸者を呼んで酒を飲んだ。そういう写真の中から警察は一枚の写真だけを問題にし、拷問で事件をでっち上げた」。金沢さんの言葉にも力がこもる。「治安維持法が拡大解釈され、少しでも戦争に批判的とみられる人たちが取り締まりの対象になった」と解説した。

石川県中能登町から参加した山下美子さん（六〇）は「仲間と政治の愚痴を言っただけで密告され、捕まる恐れがあるかと思うと、ぞっとする」。法政大名誉教授で同県白山市の須藤春夫さん（七四）は「共謀罪も何が反かを決めるのは捜査当局。逮捕されなくても、警察が調べに来るだけで、人は萎縮する。政府に批判的な動きを抑えるのが真の狙いでは」と警戒した。

紋左には八月にも東京の団体が見学に来る予定。営者の柚木哲秋さんは「年、横浜事件を目的にする人は途絶えていたが、び関心が高まっている」話している。

横浜事件 1942年、細川嘉六が雑誌「改造」の掲載論文を「共産党の宣伝」と批判され、警視庁に治安維持法違反容疑で逮捕された。その後、神奈川県警が押収した紋左論、出版関係者ら60人を投獄。拷問で4人獄死、30人余りが起訴される戦下最大の言論弾圧事件。被告5人の刑事補償を求った。2010年2月、横浜地裁決定は「共産党